

## 現代社会と標準 -- 植民地化された日常世界のリゾ ーム的多様化 (異文化言い分EVEN)

著者	宣 響
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	183
ページ	64-65
発行年	2010-12
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	<a href="http://doi.org/10.20561/00046293">http://doi.org/10.20561/00046293</a>

# 現代社会と標準— 植民地化された日常世界のリズム的多様化

## 響 宣

### ●歴史と標準

ドイツの社会学者ユルゲン・ハーバーマスは、現代社会においては日常生活がシステムによって植民地化されると主張した。政治と経済が過剰に体系化された結果、日常の生活までが植民地化され、常にシステムによって浸食されていくという話だ。システム化は物事を標準化することから開始された。政治産業そして情報という面で価値の標準化が徐々に進んだ。従って、現代の過剰なまでのシステム化の歴史は標準化の歴史と読み変えることができる。

まず、政治の世界では中央集権的君主政、直接民主政および共和政というように多様な形態から出発となった。東洋で最初の統一王国を成し遂げた秦は中央集権的な君主政だったし、アテネに花咲かせた政治が直接民主主義を具現した民主政であり、ローマでは皇帝・貴族・庶民の集合政体による共和政を敷いた。近代社会以前の政治はどのように君主政、民主政、共和政という三つの政治的標準のせめぎ合いであった。近代以降、初めて近代民主政という新たな政治標準に糾合された。近代以降、産業、社会の発展に伴い産業社会の多様なニーズを標準化して定着させ、その上に高度産業社会が築かれていった。代表的な例が一九〇三年のヘンリー・フォードによる工業の標準化であった。アメリカの自動車王フォードは、いわゆる「3S」の原則を立てて、製品や作業の簡略

化(simplification)、機械と工具の専門化(specialization)そして部品と作業の標準化(standardization)を掲げて大量生産を可能にした。これにより、需要に見合う生産が可能となり、産業経済の高度化を実現した。

現代社会では、産業の発展が情報技術の進歩と普及拡大によってこれまでになく加速している。さらに、情報は、「情報社会」という新しい言葉を作り上げるほどにまでなっており、産業界だけでなく、価値の領域にいたるまで、社会全般に大きな影響を及ぼしている。情報の領域でも一九九五年にビル・ゲイツ氏がパソコンのOSの標準化をなしとげたことで、標準化の威力を改めて示した。古代社会の秩序を維持するために発生した政治の標準化が産業界の標準化を呼び、それがさらに情報の標準化につながっている。これらのシステム化は、私たちの生活の中に深く根を下ろしている。

### ●現代社会と標準化

しかし、標準化においては、社会システムの一要素としての生活の基準を作り上げるとそれが再度システムを規定する。現代の情報伝達方式の標準化は、文字、画像、動画などの様々な形式の情報を広め、その範囲内において技術と産業のシステムを植民地化していく。そしてハーバーマスが定義するように日常生活では人々が同じ動きを繰り返すことで標準化の効率性が確保される。いわゆる日常生活の植民地化が引き起こされるのだ。

一方、現代において標準化は、システムが生活を植民地化するプロセスを妨げる要因ともなりうる。特に情報の発達により、日常生活が植民地化のみでは説明することができないような別の性格

も帯びるようになったからだ。

フランスの哲学者ドゥルーズとガタリは、現代社会をリズム(rhizome)になぞらえている。リズムとは「根茎」を意味し、集中化することもなく、階級もなく、組織的な記憶装置や中央演算装置もなく、ひたすら状態が循環する状態を示している。それは固定されたシステムにとどまらず、情報が集中している固定点を持たず、下部構造において相互間の協力体系を形成する構造とも言えよう。現代社会は時の経過とともに、分岐点にさらされることがあるが、この多様性は、日常生活のシステムによる植民地化からの脱出方法でもある。

このような文脈で、二一世紀は、遊牧民の社会と呼ばれることもある。行為の主体と追求する領域が非常に多様だからだ。たとえば、母国語しか知らない外国人は、海外旅行のとき、その国の言語を知らなくても、Googleが提供する翻訳サービスを利用して簡単に外国語を理解し、お金の引き出しやショッピングなどができる。

国際社会も、一国の法制度や、二国間または多数国間の協定だけで律することはできなくなつた。性、文化、人種、宗教、言語などのすべての現象が、グローバル化により統一化を志向しながらも、決して一体化を指すことができないで多様性の複合体を必要としている。

革新をもたらす要素も、その変化の動因が増えている。過去には、新しい道具や装置を使用して、生産革新を起こし、顧客の需要を満足させてきたが、それら製品の規格は政府や組織が文書化し管理していた。国際標準化機構は、これを公的標準(De Jure)と定義している。しかし、二一世紀における情報伝達技術の進化の過程で標準化された

Sun Hyang / アジア経済研究所海外客員研究員

出身：韓国

所属：Director Ministry of knowledge Economy Republic of KOREA

研究テーマ：The Development of the Analytical Toolbox for an Economic Impact of Standards

滞在予定：2010年7月～2012年6月

様々な情報インフラストラクチャを使用して、それぞれの市場の中で影響力を行使する新しい要素が事実上の標準 (de Facto) として加わり市場で共存するようになった。さらにこれを基盤にこれまで私たちの社会が経験することができなかった新たな市場が成立し経済のひとつの軸を形作るようになった。インターネットカフェ、インターネットショッピングなどがその例である。

これに加えて、アップル社 iPod、iPhone、iPadなどがデザインという感性的な要素をも標準化して効果的なマーケティングを行っている。人間が持つ感性は複雑だが、最もシンプルで快適さや自由を表現する透明な白や、曲面を使用するなど視覚の標準化に成功を収めているのである。遊牧民社会では標準化も技術の標準と人文社会の標準を合わせた概念として、多様化し拡大している。

● リゾーム的多様化と標準

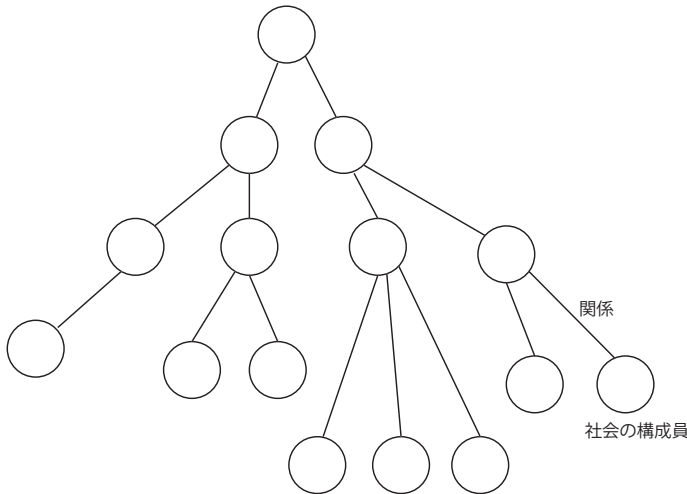
多様性が増す社会で、標準はリゾーム・システムの最初の根に例えられよう。リゾーム型になるというのは、単に変化したり変身することを指すのではない。リゾームは初期の成長を停止し、退化する根元から脇根の区別なく髭のようにぼうぼうと生はえて成長していくひげ根とも異なる。リゾームから分岐する茎は、幹のほうへ突き抜け、普通の根と接続されて成長し、太くなっていく茎である。現代社会は、このように多様性をもったシステムに似ている。現代社会ではシステムが日常生活の植民地化を促進し、また多様性によってシステムと生活は再び相互に影響し合うという様相を見せる。ハーバーマスは、公

場で植民地化を制御することを主張し、ドゥルーズとガタリはリゾームが断続的に成長するよう社会の発展的改善を期待する。

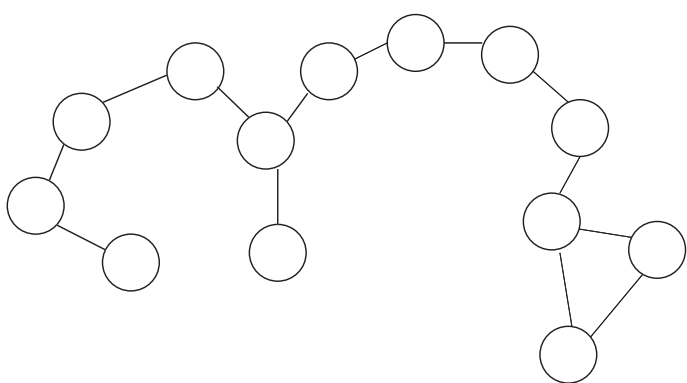
このリゾーム的な発展改善は国際標準化プロセスにより実現している。ここでは多様性に対する評価が公になされ多様性の一歩末端の部分での標準化が確立されるのである。

現代社会において標準化は、技術、産業の領域を超え、社会的責任を包括し、危機管理、教育、財務管理、情報セキュリティ、行政などの様々な分野・領域に拡大している。将来、植民地化された日常生活をリゾーム的に多様化し、社会の発展を推進する力として標準化という見方は重要になるだろう。

従来の軍隊的・会社組織



リゾーム的に多様化していく組織



標準化は双方の組織形態の発達を促進する



リゾーム